

“長い間お世話になりました。”

7月の豪雨の影響で、やむなく東京へ転出することになった小川班の小川精子さんが、9月14日に近隣住民にお別れのあいさつ。小川さんは「ほんとに長い間お世話になりました。また来たいです」と別れを惜しんだ。

また同班の地下勝子さんも、8月10日に不知火町へ。糸原幸樹さん一家は球磨村渡の山口地区へそれぞれ転出された。



別れを惜しむ
小川さん(中央)



“きれいな小川”に汗

小川班美化活動

今回の豪雨で比較的被害の少なかった小川班(松浦則幸班長 25世帯)は、10月4日(日)午前7時30分より美化活動を実施した。
この日は地区内の村道沿いの除草作業に汗を流した。

球磨村
おがわ瓦版

令和2年10月15日
編集発行 宮原 修
090-9585-8894

健康づくり出前講座と
おが和集いが再開

小川班は、9月14日(月)午後1時30分より、球磨村の介護予防指導員による「健康づくり出前講座(健康教室)」が6月1日実施以来、三ヶ月ぶりに再開した。
この日は11人が参加。

自粛の中、唯一の集いの場として待ちに待っていた。久しぶりとあつて参加者は笑顔で公民館に集まった。



体調はいかがですか?

出前講座では玄関で手の消毒をした後、体温、血圧測定。脳トレクイズやゴムボールを使つての運動をした。コロナ禍のため時間も短縮した。

その後のお楽しみのお茶会は自粛したが、当日が「敬老の日」だったため参加者を代表して松浦則幸班長がお祝いの言葉を述べ、敬老者(7人)へささやかな「プチ敬老会」をした。



笑顔で楽しく運動!

役場の住民福祉課は、出前講座これまでと同じで各班からの要請の形で開催。現在、36集落中12集落が再開している。「ふれあいサロン」は再開未定。また、班が自主的にしている「おが和集い」(第一月曜日を除く毎週月曜日)も9月21日より再開した。

おが和集い



みんなで脳トレクイズ



元気に百歳生き生き体操



大相撲秋場所(九月)

正代関 初優勝
大関昇進

熊本県宇土市出身

どんな雑沓でも
時期が来れば
だまってお
自分ひとりを
味かせ自分ひと
実をつける
みつを

相田みつを詩集より